

インターバンクの声（2017 年 8 月 22 日）

バノン米大統領首席戦略官の更迭を好感したドル買いもアジア市場では期待されたほど強まることはなかった。先週の引けから僅かに上げて寄り付いた日経平均も直ぐにマイナス圏まで下げるなど、やはり北朝鮮情勢を巡っての緊張が続いている以上は簡単にリスクを取れない。

円相場も結局のところ米金利の変化に沿った動きが中心で、米金利の低下とともにドル売り・円買いに傾いた。ロンドン勢が参入し始めると再び 109 円を割り込んだが、米金利が下げ止まったことから暫く 109 円ちょうどを挟んで取引される時間が続いた。それでもニューヨーク市場で米国株が前週末から 70 ドル超下げた場面では 108 円 64 銭までドル売りが進んだ。

その後は株価が持ち直したこともあってドルも小幅ながら買い戻されたが、市場は 24～26 日の米ジャクソンホールで開かれる経済シンポジウムでのイエレン FRB 議長やドラギ ECB 総裁らの講演を待つ態勢に入りつつあるようだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。